

運動選手の性格に関する研究

—ハンドボール選手の性格について—

滝 沢 英 夫

序

スポーツ選手の指導には、選手の肉体的な素質、技術の程度、さらにその性格などの諸条件を知ることが肝要であることはいまさら言うまでもないことである。とくにオリンピック東京大会を契機として「選手の根性」ということが採りあげられているゆえんのもの、せつかくの素質も、技術も、本人の心がけのいかんによっては、期待するような向上をみることができないと解されているからである。したがって選手の性格を正しく把握し、その短を矯め、長を伸ばすよう、本人の特性に適した方法をもって指導にあたる必要がある。現在スポーツには多くの種目があり、個人で行なうもの、チームを形成するもの、そのチームの中にはいろいろなポジションがあり、攻撃的なポジションあり、守備にまわる位置があるなど種々の条件や立場があつて、それぞれに特色が認められ、これらの種目、あるいはポジションにふさわしい性格的な条件も内外の文献に考察されている^{1),2),3),4),5)}。このようなスポーツのもつ性格的な条件に対して、個々の選手の性格特性に基づいて、適材を適所に配し、これに最適の方法を考慮して指導することが望ましいわけである。

I 目 的

以上の観点から、大学・高校ハンドボール選手について、個々の選手の性格特性はもちろん、ポジション、経験年数等による性格的条件を解明す

ることによって、スポーツ選手の指導にさいし、個々の選手に最も有効な指導方法を得ることを目的として、「MMPIの東大改訂版」(註参照)による性格診断法を用い、性格分析を行なった。

II 方 法

検査方法として、「MMPI 東大改訂版」を用いてテストを行なった。

1. 標準群の設定

第1表のごとき、一般成人群の平均と標準偏差とから求めたTスコアーによって標準プロフィールをえがき、そのプロフィールの上に被検者の得点を示した。

2. 被検者群の構成

A 高校男子選手

昭和 36 年度全日本高校ハンドボール選手権大会出場のベスト 8 チーム選手 (85 名)

B 高校女子選手

昭和 36 年度全日本高校ハンドボール選手権大会出場のベスト 8 チーム選手 (92 名, 正選手 52 名, 補欠 40 名)

C 大学選手

昭和 35 年度全日本学生ハンドボール選手権大会出場のベスト 4 の中、芝浦工大 38 名, 日体大 40 名

D 対照群としての一般学生 100 名 (東大・都立大・芝浦工大)

III 結果とその考察

A 高校男子

昭和 36 年度全日本高等学校ハンドボール選手権大会出場のベスト 8 のチーム (中京商高,

第1表 一般成人群の構成

(1) 年齢職業別

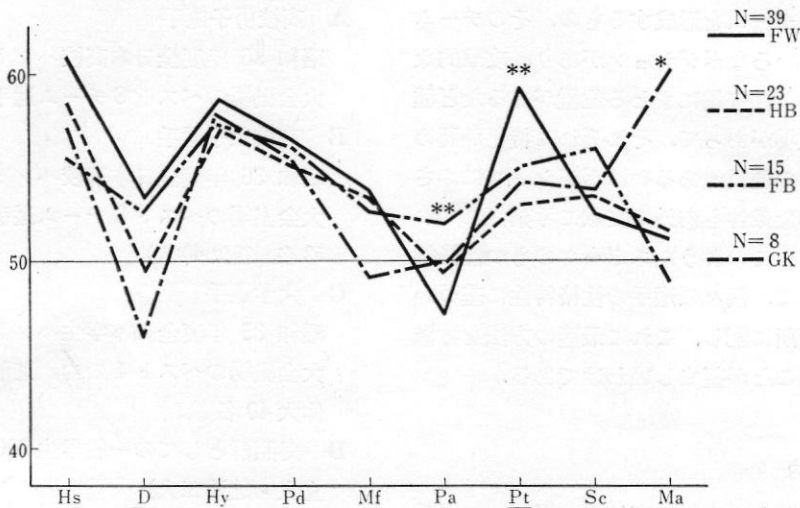
年齢	職業 性別		専門技術 管理		事務		販 売		農・漁業		運輸・技能		サービ ス		無 職		計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
15~19					1	3	4	2	3	2	17	8	2	2	25	31	52	48
20~24			3	5	8	9	3	7	3	10	9	5	8	15	18	51	52	
25~29	7	2	9	4	5	2	3	2	17	4	2	5		30	43	49		
30~34	3	1	5	1	2	2	4	4	18	3	1	1		28	33	40		
35~39	2	1	4	1	5	3	5	5	17	1	1	2		18	34	31		
40~44	4	1	3	1	4	3	4	6	10	5	1	1		16	26	33		
45~49	4		2		5	2	3	3	11	1	1			16	26	22		
50~54	4		4		5	3	3	4	3					8	19	15		
55~	3		3		2		3	6	2					4	16	10		
計	27	8	36	18	41	20	35	35	105	31	16	19	40	169	300	300		

(2) 未・既婚別

	男	女
未 婚	123	124
既 婚	153	156
不 明	24	20
計	300	300

(3) 学 歴 別

	男	女
新制中学・旧高小卒以下	113	69
新制高校・旧制中学卒	105	195
新制大学・旧専門学卒以上	71	29
不 明	11	7
計	300	300



第1図 高校男子ハンドボール選手のポジション別プロフィール (11人制)

桜台高, 清水商高, 熊本市高, 仙台二高, 墨田川高, 寝屋川高, 北佐久農高) の選手にテストを実施し, 妥当性スケールにより妥当と認めら

れた 85 名について, 各ポジション別のプロフィールを求めたものが第1図である.

なお 85 名のポジション別の内訳は以下の

通りである。FW 39名, HB 23名, FB 15名, GK 8名である (11人制である)。

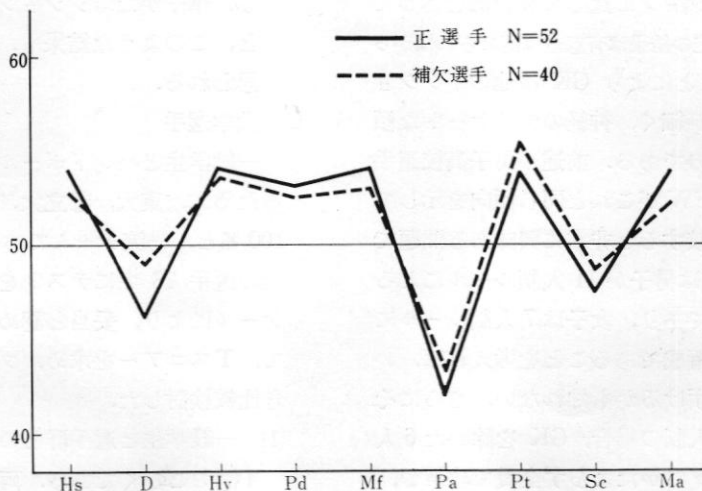
- (1) 神経症的傾向をみる尺度群の, Hs, D, Hy, Pt について検討すると, 他のポジションに比べて, FW がいずれも上であり, いわゆる線が細い傾向を示している。これは他のポジションに比べ, デリケートな神経の持ち主が多いものと考えられる。また一方これは, FW が機敏な動作の必要なポジションの性質上, このような傾向があらわれたのではないかと考えられる。
- (2) Pa については, FW が低い値を示しているのは, ひがむことが少ない性質であり, これは現在の環境に満足していることと思われ, FW がそのポジションから考えると, 常に日の当る場所であるということも影響するのではないかと考えられる。
- (3) 精神病的傾向をみる尺度群としての, Pa, Pt, Sc について見ると, FB は他のポジション群より, いずれも高い値を示していることは, このポジションが他より地味であり, 受身的な位置にある関係からか, 孤立自閉的な傾向を示しているように思われる。
- (4) Ma については, GK が極めて高い値を

示している。しかしこれは例数の不足のため, 断定することは危険ではあるが, 他のポジションに比べて, 活動的であるといえるのではないかと考えられる。

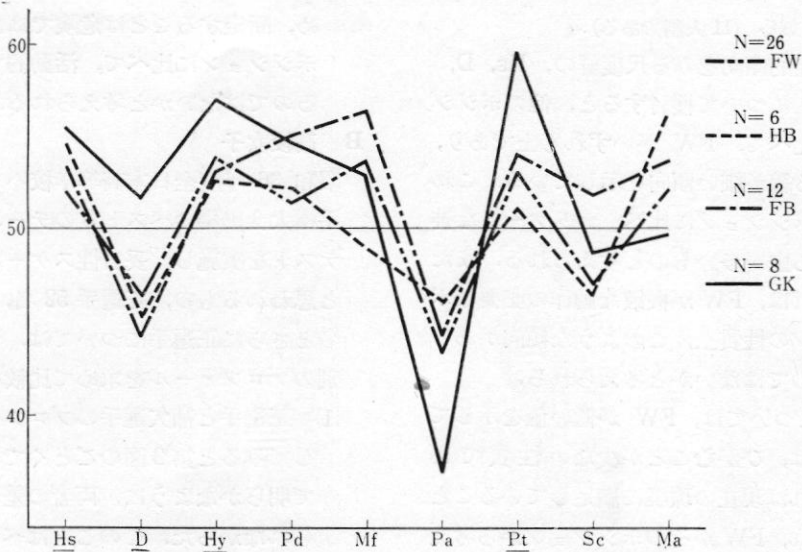
B 高校女子

昭和 36 年度全日本高等学校ハンドボール選手権大会出場ベスト 8 のチームを対象としてテストを実施し, 妥当性スケールにより妥当と思われるもの, 正選手 52 名, 補欠選手 40 名とさらに正選手については, 各ポジション別のプロフィールを求めて比較検討した。

- (1) 正選手と補欠選手のプロフィールを比較してみると第 2 図のごとくである。この図で明らかなように, 両者の差はほとんど見られなかった。このことはベスト 8 に残るようなチームは, 選手の層が厚いため, このような結果が出たものと思われる。
- (2) D スケールについて, 差がみられるが, T 検定の結果は有意差がみられなかった。正選手の方がかなり低いが, これは補欠選手より劣等感がより少ないことを示しているので当然であると思われる。
- (3) Pa スケールは両者とも平均より, かなり低い値を示している。このことは選手が普通の人より自分を不利に考えない, ひが



第2図 高校女子ハンドボール正選手と補欠選手のプロフィール



第3図 正選手のポジション別プロフィール (7人制)

みばくない、すなわち現在の環境に満足している傾向を強く示しているものと思われる。

- (4) 正選手 52 名のポジション別プロフィールは第3図のごとくである。内訳は FW 26, HB 6, FB 12, GK 8 である (7人制である)。
- (5) Hs, D, Hy, Pt の4スケール群が、神経質的傾向をみるスケールであるが、GK が他のポジションに比して高い値を示している (T検定の結果は有意差は認められなかった)。このことにより GK は他のポジションより、線が細く、神経のデリケートな傾向を示すものである。前述の男子高校選手の場合は、FW がこれと同じ傾向を示しているのに比較すると非常に興味ある問題である。これは男子が11人制ルールによるチーム編成であり、女子は7人制ルールによるチーム編成であることを考えれば、いちおうなずけるかも知れない。さらにそのことは7人制の場合、GKを除いた6人がポジションにかたよらず全員で攻撃し、全員で防御する形をとるチーム構成に影響

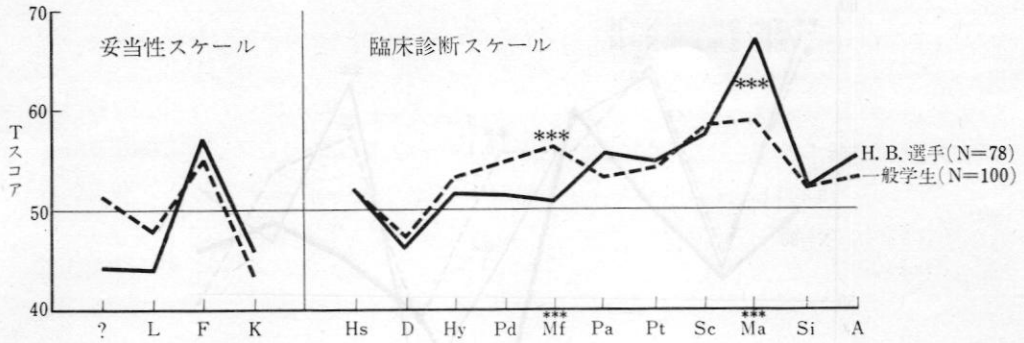
してか、男子の場合と異なり、FW, HB, FB の間に目立つような差がみとめられなかった。

- (6) Pa についても、やはり GK が低い値を示しており、前述のように自己のポジションに満足していることを示している。男子の場合は、FW が Pa が特に低い値を示しており、11人制のFWと7人制のGKのポジションが、非常に重要なポストであり、華やかなポジションである点を考えると、このような結果も、もっともであると思われる。

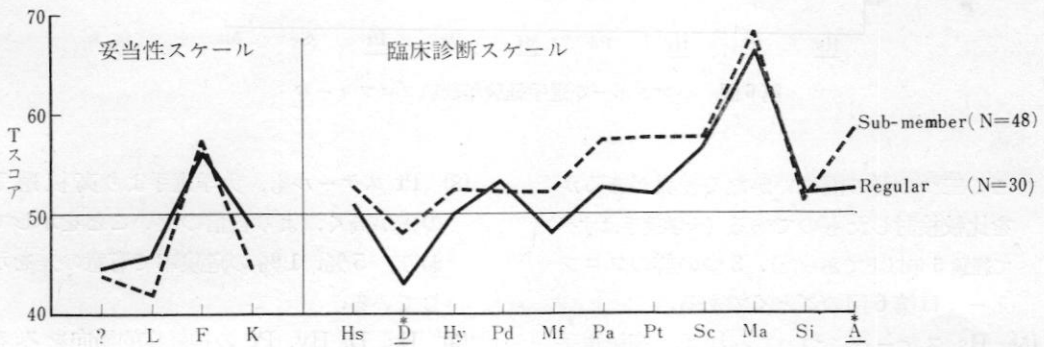
C 大学選手

一般学生とハンドボール選手を比較検討するために、東大、都立大、芝浦工大の学生100名と、一流チームである日体大、芝浦工大の選手78名にテストを行ない、妥当性スケールにより、妥当と認められたものについて、Tスコアを求め、プロフィールをえがき比較検討した。

- (1) 一般学生と選手群とのプロフィールは第4図のごとくである。両者の間に大きく差のあると認められるスケールは、Mf, Ma



第4図 H. B. 選手・一般学生プロフィール



第5図 レギュラー・サブメンバーのプロフィール

のスケールである (T検定の結果, 0.1%の危険率で有意差があった)。このことは, HB選手群の方が, 一般学生群よりさらに強い男性的傾向を示し, より活発であり, 積極性が多い傾向を示しているのである。

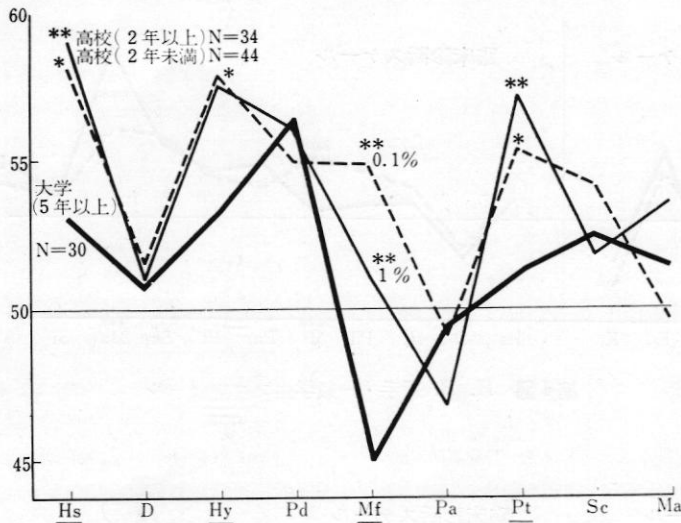
前述の大学選手を同チームの監督により, 常に第一戦で出場すべき選手と, 控えの選手とに判定し分類し, レギュラーと認められる選手 30名, サブメンバーの者 48名について, 比較検討するために求めたプロフィールが第5図である。

- (2) Pd スケールを除いて, サブメンバーの T スコアの平均より, 明らかにレギュラーの方が低い値を示している。このことは, 各スケール毎に, レギュラーの方がより少ない傾向を示している。
- (3) Dスケールについては, T検定の結果5

%の危険率で有意差を示したが, このことはレギュラーが, サブに比して, よくうつ病的傾向がより少ないことを示し, 劣等感や悲観的傾向が, サブより少ないのは当然であると思われる。

- (4) Aスケールについてみると, このスケールは追加スケールとして「不安な感情を測定する“不安尺度”」であるが, このAスケールの点が低いことは, 当然不安が少ないということであり, レギュラーはサブメンバーより楽観的であり, また自信をもって行動していることを示しているのである。

前述のハンドボルの大学一流選手 (日体大・芝浦工大レギュラー 30名) と男子高校選手 (前述のベスト8チーム) 群を, 経験2年以上と2年以下の二つのグループに分け,



第6図 ハンドボール選手経験年数別プロフィール

この三つの群の間にはかなりの差異があるかを比較検討したものである(大学選手はすべて経験5年以上であった)。3つの群のプロフィールは第6図のごとくである。

- (5) Hs スケールについてみれば、高校選手の方が大学選手より明らかに高い値を示しており、経験2年以上は5%、2年以下は1%の危険率で(T検定)、有意差を示した。このことは高校選手の方が自分の健康について過度に心配している、すなわち言葉を変えれば、大学選手は自己の体力、健康について、より自信をもっている傾向を強く示している。
- (6) Hy スケールについても、高校選手の方がより高い。すなわち反省力が弱く、我が強いということを示している。これも5%の危険率で有意の差があった。
- (7) Mf スケールについては、大学選手より高校選手の方が高く、大学選手の方がより男性的であることを示している。これも1%の有意差を示し、さらに高校選手間でも、より経験の多い方が男性的であることを示し、両者の間に5%の危険率で有意の差を示していた。

(8) Pt スケールも、大学選手より高校選手の方が高く、より自信のないことを示しており、5%、1%の危険率で有意の差を示している。

- (9) Hs, D, Hy, Pt の神経症的傾向をみるスケール群についてみると、明らかに大学選手すなわち経験の多い選手群の方が、低い値を示している。すなわち大学選手の方が神経症的傾向が少ない、線が細くない、裏をかえせば、経験年数の多い選手は線が太いという傾向があるといえるのではなからうか。

IV 結 び

以上運動選手の中、ハンドボール選手について、男女別、ポジション別、経験年数別その他、いろいろな角度より、その特性について検討してきたが、各個人の性格特性をグループにより平均化した場合の変化、および、スポーツによる性格の形成という点よりの、個人の継続追求の必要性、個人種目と団体種目による性格特性の差、アマチュアとプロフェッショナルなスポーツ選手の性格の差など、未だ未解決・未知の世界をいかに解明して行くか、今後大きな問題があることが判明

し、僅かな手掛りではあるが、以上のものを礎石として、今後共研究して行きたいと思っている。

終りに本研究に関して、終始懇篤なご指導を下された東京大学西尾貫一助教授、平田久雄講師、芝浦工大高島洸教授、大阪体育大学山本隆久助教授に、深甚の敬意と感謝の意を表します。

(注) MMPI 東大改訂版について

MMPI とは Minnesota Multiphasic Personality Inventory²⁾ (ミネソタ多面性人格テスト) の略で、質問紙法による性格検査の一種である。このMMPI の原版を、東大教育心理学研究室を中心に、日本人に通ずるように改訂したものが「東大改訂版³⁾」である。この検査の質問項目は524項目よりなり、被検者はこれに対して「はい」「いいえ」「どちらともいえない」のいずれかを答えることになっている。その結果は、被検者の応答態度を調べるための四つの妥当性尺度と、性格特性を測定する10の臨床尺度に分けて採点される。

A 妥当性尺度

1. 疑問点(?) The Question Score 全項目

疑問点とは被検者が質問に対して「はい」「いいえ」のいずれにも解答しなかったもので、これが高ければ、それだけ他の尺度の得点となるべき項目が減るから、実際はもっと高くなるのではなからうかという疑いが出てくる。

2. L 嘘構尺度 The Lie Score 15項目

L 点は自分が道徳的によくみせようとして回答をえらんでいる程度、すなわち実際の自分を偽っている程度を測定する。

3. F 尺度 The Validity Score 64項目

F 点は被検者の記録全体が妥当であるかどうかをたしかめるためのもので、F 点が高いことは、被検者が不注意であったり、質問項目を理解できなかった場合などである。

4. K K点 The K Score 30項目

K 点は、この検査により測定された各臨床尺度(例えば Hs, Pd, Pt, Ma) の得点の識別力を増すための、修正点として用いられる。K 点の高いということは、心理的な弱点に対する防衛性を表わし、したがって、より“正常”にみせようとして、「実際の自分をゆがめようとするような種類の防衛」を示す場合があるようである。逆に低い得点は、その被検者が非常に卒直で、しかも自己批判的

であったりした場合などである。また悪い得点を得ようと企てたり、悪い印象を与えようとする、K 点は低くなる。

B 臨床尺度

1. Hs ヒポコンドリー (心気症) 尺度

The Hypochondriasis Scale 33項目

Hs スケールは、身体的機能に関する異常な関心の程度を測定する。このスケールの高い被検者は、自己の健康について不当に心配する。このような人は、はっきりと指摘できないような苦痛や、健康上の不調をしばしば訴えることが多い。

2. D うつ病尺度 The Depression Scale 60項目

このスケールは、臨床的に認められる抑うつ症状候や、症状群の深さを測定する。このD 点のことは、将来に対して人並以上に悲観的だったり、人生を楽観的に考えるのは無駄であるとか、無能感から志気が低下したり、人生を深刻に考えすぎて自信を失ったりした場合に高いものを示す。

3. Hy ヒステリー尺度 The Hysteria Scale 60項目

このスケールの高得点者は心理的に未成熟で、反省力が弱く、自我が強い傾向を示し、精神的圧迫が加えられると、歴然としたヒステリー状態をおこしやすい。

4. Pd 精神病質尺度 The Psychopathic Deviate Scale 50項目

このスケールは、深い情緒的な反応が欠けているとか、経験を利用する能力がないとか、社会的慣習を無視するとかいう面で、おもに欠陥のある人々の集団にどの程度似ているかを測定する。このスケールの高得点者は、社会的慣習から離脱し、盗み、嘘、アルコール耽溺、性的不道徳など、一連の非社会的行為を行なうもので、犯罪を犯しても動機に乏しく、ろくにかくそうともせず、深い情動反応に欠けている場合などである。

5. Mf 性度 The Interest Scale 60項目

興味の型がどの程度男性的傾向か、また女性的傾向かを測定する。T スコアは、男性用、女性用の二つに分けてある。

6. Pa パラノイア (偏執病) 尺度 The Paranoia Scale 40項目

このスケールは、さい疑心が強く、過度に感じやすく、被害妄想的で、極度に自己中心的な傾向を測定する。

7. Pt 精神衰弱尺度 The Psychasthenia Scale

48 項目

このスケールは、病的恐怖の行動や、強迫的行動で苦しんでいる精神病患者とどの程度類似しているかを測定する。この高得点者は、やたらに手を洗ったり、つまらない考えや妄想観念から逃げられないような人の場合であり、取越苦勞をしたり、自信欠乏の傾向を示す。

8. Sc 精神分裂病尺度 The Schizophrenia Scale
78 項目

このスケールは奇異な、普通でない考え方や行動をする点で特徴のある患者とどの程度類似しているかを測定する。この得点が高い人は、社会意欲に乏しく、常人と変った考え方をしている場合が多い。

9. Ma 軽躁病尺度 The Hypomania Scale 46
項目

このスケールは、思考、動作において顕著な過剰生産性をもつ人に、特有の人格特性を測定する。このスケールの高位点者は、計画をたてすぎて苦勞したり、熱狂的、活動的で、ときに社会規範を無視したりすることがある。

10. Si 社会的向性尺度 The Social I. E. Scale
70 項目

このスケールは、他人との社会的な接触をさけようとする傾向が、どの程度であるかを測定する。このスケールの高得点者は、他人との交際をさけよう

とし、うちとけないような場合がある。

文 献

- 1) Place, J. P. La: Personality and Relationship to Success in Professional Baseball, Res. Quart. A. A. H. P. E. R. Vol. 25, No. 3, 1954.
- 2) Booth, E. G.: Personality Traits of Athletes as Measured by the MMPI, Res. Quart. A. A. H. P. E. R. Vol. 29, 1958.
- 3) 神田順治他: MMPI によるスポーツ選手の性格に関する研究, 体育学研究, 7 卷 1 号, 1962.
- 4) 滝沢英夫他: 高校女子ハンドボール選手の性格について, 体育学研究, 8 卷 1 号, 1963.
- 5) 青井水月: バスケット・ボール選手の性格特性および得点とボール処理能力と性格との関係, 東京大学教養学部体育学紀要, 第 2 号, 1963.
- 6) Hathaway, S. R. and J. C. Mckinely: The Minnesota Multiphasic Inventory Manual (Revised), New York.
- 7) Bahlstrom W. and G. S. Walsh: An MMPI Handbook, ch. 3, 47~85, 1960.
- 8) 井村恒郎他: 精神医学臨床検査法, 医歯薬出版, 217, 1959.
- 9) 東京大学学生部: MMPI 東大改訂版 (研究報告と実施手引) 昭和 37 年 4 月.

An Investigation on the Personality of Sportsman

— On the Personality of Hand Ball Players —

by

HIDEO TAKIZAWA

Synopsis

M. M. P. I. (revised edition by Tokyo University) was carried out to the hand ball players from university and high school, and the results were closely investigated, inquiring what difference may occur when players' sex, position in a game, years of his experience should differ and whether he is a regular member or a sub-member.

1. When compared in respect to a position in a game, boys showed a fairly clear distinction in their personality, but girls are not so differentiated as boys, with the exception of Goal Keeper who resembles Forwards of boys. Distinctive features of each position in boys are as follows; Forwards is found to be stronger in neurotic

tendency than other positions, Fullback is rather of isolated and self-confined constitution, and Goal Keeper mostly shows manic emotion.

2. At the level of university, students who are sports players showed different characters than those seen in students who do not belong to a sports club. The former is more manly and active than the latter (There was a significant difference found in Mf and Ma.).

3. Regular members are generally in better and sound mentality than sub-members.

4. Those who have had longer experience in this sports are of less tendency to neurosis and are more manly.